

「お話「オオカミと石のスープ」」

梅岡 結月花（うめおか ゆづか） 6歳

しんかくじこども園（京都教区）

めんどりさんの家の中で、石のスープを作るオオカミと、それを見守りながらみんなで楽しいひとときを過ごしている動物たち。最初は「オオカミに食べられちゃう！」と物語の中の動物たちと同じようにめんどりさんを心配していたのでしようね。しかし、みんなと楽しい宴になっていたのではありません。「このオオカミこわくない！」「スープ、どんな味したんやろう？」という言葉に、ゆづかさんの思いが表れています。ともすれば、いっしょにこの宴に加わっているかのよような想像の楽しさが感じられます。

先生は、絵本を読み終えた後、子供たちからめんどりをはじめ、動物たちの様々な声があがっているのを丁寧に聴きながら対話することを心がけられたそうです。子供たちは、お話をすることやお友だちのお話を聞くことで、今一度想像の世界の中で遊ぶことができます。あとは、集中して描いている姿を見守ることに徹したことでこの豊かな表現が生まれたのです。

●表紙のことば●



おおはし いさお
大橋 功

和歌山信愛大学